



～潮風の中でたくましく～

第8号 校長 栗原 歳盛

全国学力学習状況調査

5月14日、6年生を対象に実施された令和3年度全国学力学習状況調査について報告します。

1 学力調査結果 平均正答率

	国語	算数
泊小学校	68	70
鳥取県	64	69
全国	64.7	70.2

- ・国語は鳥取県、全国平均を上回っている。算数は鳥取県、全国平均と同程度だった。
- ・国語の領域別では、「書くこと」の領域が全国、県を大きく上回っている。
- ・算数では、「数と計算」の領域が全国、県を上回っている。「変化と関係」が全国・県を下回った。
- ・問題形式を見ると、「記述式」回答の力が国語・算数とも全国・県を上回っている。

【今後の取り組みとして】

- ・資料を使いながら話す力を伸ばすことが大切。相手や目的を意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えると資料の提示や話す方法について、国語科や全教科領域で指導をしていきたい。
- ・理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き、表し方を工夫する記述問題の正答率が高かった。条件を落とさずに字数を考えて書いており、文章全体の構成を工夫し、理由を明確にして読み手に向けて書くことができていた。
- ・漢字の問題では、中学年から高学年で生活の中で習った漢字を使って書いていくことが大切である。漢字の成り立ちや熟語の意味を調べたり、新出漢字を入れた短文づくりなどに取り組んだりすることで、語彙を増やす指導をしていくことも必要である。
- ・算数の学習では、式や図が何を示しているのかを算数用語を正しく使いながら筋道立てて説明することや、友達の考えを言い換えたり、代わりに説明したりする機会をつくるなど工夫していく。各学習の本時のねらいを達成するための数学的活動を通して数量の関係を捉えていくことを大切にしたい。

2 児童質問紙調査結果（％）の分析と考察

(1) 生活習慣に関する項目について

◇「朝食を毎日食べていますか」

食べている（本校94.5、県95.9、全国94.9）

◇「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

よくしている（本校16.7、県40.6、全国38.9）

よくしている・ときどきしている（本校72.3、県73.5、全国74.0）

◇「1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」

「1時間以上2時間未満」が33.3％で一番多く、「30分未満」16.7％、「全くしない」5.6％もあった。読書時間について、「家庭で全くしない」22.2％、新聞については「全く読まない」72.2％であり、読書、新聞読書の推進を図りたい。

- ◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」
本校児童は22%の児童が「持っていない」と回答しているが、持っている児童の中で「きちんと守っている」が22.2%で県（39%）全国（38%）を下回っている。「だいたい守っている」を合わせても、61.1%で県、全国を下回っている。「あまり守っていない」5.6%、「きまりはない」11.1%もあった。
「平均1日当たりどれくらいのゲームをしますか」に対しては、22.2%の児童が3時間以上と答えている。

（2）自分に関する項目について（挑戦心・達成感・規範意識・自己有用観等）

- ◇「自分にはよいところがあると思いますか。」
あてはまる（本校55.6、県38.2、全国36.2）県、全国を大きく上回っている。
どちらかという当てはまるを合わせると、88.9%、「当てはまらない」と答えた児童が5.6%あった。
- ◇「将来の夢や目標を持っていますか」
当てはまる、どちらかという当てはまる（本校72.2、県78.6、全国80.3）
県や全国をやや下回っている。「当てはまらない、どちらかという当てはまらない」32.8%で全国、県と比較しても高い。
- ◇「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」
当てはまる、どちらかという当てはまる合わせると100%
- ◇「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」
当てはまる、どちらかという当てはまる（本校77.8、県74.1、全国70.9）
県、全国を上回っている。
- ・学校生活の中で児童一人一人の良い点や可能性を見つける、ほめるなどの取り組みを引き続き充実させていく。児童会活動や行事等で目標を持って取り組み、成就感や達成感を味合わせることで自尊感情や自己有用感を高めていきたい。

（3）いじめに関する項目や学校生活に関する項目について

- ◇「人が困っているとき、進んで助けていますか」
当てはまる＋どちらかという当てはまる（本校100、県88.8、全国88.7）
- ◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」
当てはまる＋どちらかという当てはまる（本校94.4、県97、全国96.8）
県、全国をやや下回る。
- ◇「学校に行くのは楽しいと思いますか」
当てはまる＋どちらかという当てはまる（本校77.8、県80.6、全国83.4）
- ・人権教育を柱として引き続き取り組む。人権問題や身近なトラブルについて一人一人どう考えているのが話し合い、トラブルの解決の方法など指導していく。また、児童の心が満たされるよういじめをしない心の環境づくり、仲間づくりを進めていくことが必要である。学校生活についての児童の思いをさらにくわしく分析していきたい。

（4）ふるさと学習に関する項目について

- ◇「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
あてはまる、どちらかという当てはまる（本校83.3、県74.7、全国58.2）
- ・ふるさと学習をさらに取り入れ、地元食材給食の食育指導も加え、自分たちのふるさとを誇りに思えるよう今後も進めていきたい。

(5) 教科等の学習について

◇「国語の勉強は好きですか」

当てはまる33.3%で県(23.6%)全国(22.7%)を上回っている。どちらかといえば当てはまるを入れると61.1%である。

「国語の授業はよく分かりますか」の質問では、当てはまる、どちらかといえば当てはまるが88.8%で、兼(84%)全国(84.2%)を上回り、わかることが学ぶ意欲につながっていると考えられる。

◇「算数は好きですか」

当てはまる+どちらかという当てはまる(本校55.1、県67.4、全国67.8)下回っている。

算数の学習は大切だと思いますか。当てはまる、どちらかという当てはまるが88.9%

算数の授業の内容はよく分かりますかでは、当てはまる+どちらかという当てはまるが83.4%あり、

- ・算数の学習は大切だと考え、学習内容は理解しているが算数の学習は好きではない児童がいることが分かる。

「算数の授業で学習したことをしたことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問では、当てはまる、どちらかという当てはまるが(本校55.5%、県73%、全国73.9%)で県、全国を大きく下回っている。日常生活と結びつき、興味を持って取り組む子ども主体への学習改善が必要である。

◇「英語の学習は好きですか」

当てはまる、どちらかという当てはまる55.5%で県(69.9%)全国(68.3%)を下回り「学校の学習以外で英語を使う機会がありましたか」では「当てはまらない」「どちらかという当てはまらない」が72.2%もあり、県(61.1%)全国55.4%)を大きく上回っている。

- ・児童が興味を持って取り組み、楽しいと感じる英語学習の工夫が必要である。

◇「学校でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用していますか」

「月1回未満」と回答している児童が多い。(本校66.7%)

「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと思いますか」の問いには「役に立つと思う」88.9%で県(70.0%)全国(66.1%)を大きく上回っている。

- ・ICT機器を今後の生活で重要だと考えているが、学校の学習の中では積極的にまだ活用できていないと感じていることが分かる。児童一人一人に配備されたタブレット端末を学習の中で積極的に活用していく必要がある。

3 その他

- ・主体的・対話的で深い学びのある学習を目指して授業改善をさらに研究する。
- ・どの学習においても資料を活用していく力が求められている。図表やグラフ、絵、写真を読み取り文章と資料とを関連付けて自分の考えをまとめる学習を継続的に取り組む。
- ・朝食、計画的な家庭学習、読書の習慣、情報機器とのかかわりなど課題が見られた項目について、保護者アンケートやPTA活動(ノーメディアチャレンジ)と関連させて、家庭と協力、連携して取り組んでいきたい。